一橋大学法科大学院視察結果概要

1　日時
平成２６年４月２４日(木)午前１１時００分から午後１時００分まで

2　場所
一橋大学大学院法学研究科（法科大学院）

3　出席顧問
納谷座長，阿部顧問，有田顧問，橋本顧問，山根顧問，吉戒顧問

4　法科大学院概要説明
別紙１のとおり

5　授業見学
「公法演習Ⅱ」渡邉康行教授（３年次・必修科目）
「刑事実務概論」青木孝之教授（３年次・必修科目）

6　教員との意見交換会
⑴　教員の出席者
高橋副学長，青木法学研究科長，阪口法科大学院長，橋本教授（前法科大学院長），滝沢教授，小粥教授
⑵　概要
別紙２のとおり

7　学生との意見交換会
⑴　学生の出席者
人数５名
（内訳）
２名（３年生・既修・法学部出身）
１名（２年生・既修・法学部出身・社会人経験あり）
１名（１年生・未修・非法学部出身）
１名（１年生・未修・法学部出身・社会人経験あり）
⑵　概要
別紙３のとおり

別紙１

一橋大学法科大学院（概要説明）

【入学定員等について】

○　既修６０名，未修２５名。既修者は認定試験を受け，２年次に編入される。本日の視察対象のクラスは既修と未修の混成のクラス。

【入学選抜方法の特徴について】

○　英語力を重視していること。全員面接を行うこと。

【履修課程の特徴について】

○　「法律英語」等，英語を使う科目を必修としていること。少人数教育を行っていること。３年次にビジネスローコースを選択できること。

○　ＧＰＡ１．７を進級修了の基準としていること。

○　総復習を促すため，１年次から２年次に進級する際に，進級試験を課すこととした。

【実績の特徴について】

○　近年若干落ちてきたとはいえ，出願倍率が４倍弱と高い競争率を維持していること。

○　司法試験の合格率が高く，受け控えが少ないこと。

○　受け控えが少ないのは，修了時点で実力がついているという自覚が学生間にあるものと認識している。

○　修了生が多方面で活躍していること。

【課題について】

○　未修者の成績が伸び悩んでいるので，未修者を適切に評価する方法を考える必要がある。学修に対するモチベーションを維持させるため，進級試験を講じる等の工夫をしている。進路については，法廷実務家だけではなく，企業法務や官公庁での活躍の場所もあるのだという意識啓発のため，セミナー等を開催していく必要がある。

別紙２

一橋大学法科大学院（教員との意見交換）

【司法試験合格率向上に向けた取組みについて】

○　司法試験対策を想定した授業は行っていない。法科大学院が発足した当初，初代の院長が，「高い志でやろう。司法試験は実力の７割の力で合格できるようにしたい。将来の自分の姿を想像して学び，法曹界の指導者となりうる人材を育成する。学生同士においても，学生と教員との間においても，信頼関係と緊張感をもって接してほしい。」という方針を立てた。我々は，その方針に賛同して，学生を指導してきた。そのことが，今の実績の礎になっていると思う。

○　（合格率の高さについては,）適正な規模であることが要因ではないか。また，一つの授業科目について，複数の教員が受け持つのではなく，最初から最後まで同じ教員が責任を持って受け持つこととしている。それが学生と教員の信頼関係につながっている。また，学生の自主ゼミが盛んに行われており，自主ゼミに入らずに孤立している学生はまずいないと思われる。自助，共助，公助という理念のもと，このような学生自身の努力が，高い合格率に結びついていると思われる。

【予備試験について】

○　予備試験対策に夢中になっている者は見当たらず，平成２３年の予備試験実施の前後で，授業に臨む学生の姿勢に特段の変化はない。昨年は，６６名受験して１３名が予備試験に合格しており，その大半は３年生であったが，多くの者は，予備試験を実力試験と考えて受験しているようである。

○　予備試験による法科大学院教育への影響は，当学においては感じていないというのが正直なところ。

○　（予備試験合格者が増えている状況に関して,）予備試験は超特急制度であると考える。予備試験に合格してもなお，法科大学院に残って学んでほしい。また，学部で予備試験に合格しても，法科大学院へ進学して学んでほしい。予備試験は，制度として問題があると感じている。

【入学者数の動向】

○　（入学試験における高い競争倍率の理由として,）司法試験の実績や,ＯＢ・ＯＧの活躍，オープンキャンパスなども要因の一つではないか。教員が法科大学院の教育に非常に熱心に取り組んでいることを学生が感じ取ってくれているのではないかと思う。

【教育全般（課題や対応等）】

○　学期ごとにＤ評価が３割以上またはＧＰＡ２．０未満の者を対象として，教務担当の教員と院長で個別面接をして，次の学期につなげる。特に成績不振な学生については，教授会で対策を議論している。

○　純粋未修者等を対象とする随意履修科目として導入ゼミを設置している。

○　未修者については，成績の差が大きく上下に二分する傾向があるので，成績不振者については，そのようなところでつまずいているのか，学期ごとの院長・教務担当教員との面談やＦＤ会議での１年生科目担当教員の報告を通じて把握し，教員全員で問題を共有するように努めている。

○　ビジネスローコースを，千代田キャンパスで開講しており，学生は国立から週１回通って受講している。志望者が多く選考が必要となった場合もあるが，おおむね希望者全員の履修が認められている。受験を控えた３年生後期に開講するが，学力に余裕があり，渉外事務所への就職を希望している者が受講している。

別紙３

一橋大学法科大学院（学生との意見交換）

【将来の見通し】

○　将来は弁護士志望で，いわゆる「町弁」となり個人で事件を受任できるようになりたい。（２人）
○　将来は企業法務で知的財産を扱う弁護士になりたい。（２人）
○　将来はセクハラ問題や女性の人権問題に携わりたい。

【入学動機】

○　学部も一橋大学であること（２人）
○　一橋大学法科大学院の司法試験の合格率の高さに魅力を感じた。（２人）
○　３年次にビジネスローコースで先端科目の講義を受講できるから（２人）

【司法試験，予備試験の受験について】

○　必須科目については，授業及び自主ゼミ等で合格レベルまで達しやすいと思う。選択科目については，自習によるところが大きい。
○　２年生の授業が一番大変（カリキュラムの密度が高い）。今は，授業の予習復習で精一杯。自主ゼミを組んで授業に臨んでいる。司法試験の勉強はあまりできていない。
○　予備試験については，全員が今年ないし来年の受験を予定。
※受験理由
・　予備試験合格がステータスとなると思っている。渉外系事務所の就職に有利。
・　来年は司法試験を受けるのだと自分に気合を入れるために，今年，予備試験を受けて，馴れておきたい。
・　司法試験のレベルを知るための模擬試験として。
・　できるだけ早く司法試験に合格したいので。
○　予備試験対策としては，択一試験のみ。論文対策は不要と思っている。法科大学院の授業の予習復習で対応できると思う。
○　予備試験の試験対策が法科大学院の授業等に影響したり，妨げとなったりしているという自覚はない。
○　法科大学院では法律の勉強の仕方や考え方について，全てを受け身で学ぶつもりはなく，自分で積極的に臨んでいる。試験対策は友人との自主ゼミで十分できており，法科大学院の授業と相反することをやっているつもりはない。

【法科大学院の教育について】

○　大学の先生と実務家の両者から学べることは非常によいこと。先生からの熱意も強く感じる。「君達が新しい判例を作るんだよ」と指導されるので，上を目指すという気持ちになり，モチベーションが高まる。
○　未修者クラスは２５人であり，ソクラテス式の授業が行われている点，クラスのメンバーと法律の話をするにもちょうどよい人数である点は良い。
○　多様なバックグラウンドを持った学友から，生き方にも刺激を受けることもあり，そういった部分が良い。
○　ビジネスローコースで高度な授業を受けることができる。